

労働党中央委 講演・旗開き

新議長 党の前進訴え



新しい指導体制のもと激動する時代に立ち向かう決意にあふれた新春講演と旗開き



第1628・1629号

2022年
1月25日

定価1部600円

定期購読
半年 5400円
1年 10000円

振替番号
00140-5-95121

日本労働党中央委員会
発行所
労働新聞社
編集発行人
高橋 信

本社 〒101-0051
東京都千代田区新田橋4丁目
1-5 ホザール新田橋2階
電話 03-3265-6506(代)
FAX 03-3265-6507

北海道支社 〒001-0033
札幌市北区北33条西6丁目
1 10 206
電話 011-558-4441

関西支社 〒532-0011
大阪市淀川区西中島5-8-29
チサン第3新大阪501号
電話 06-6586-9920

九州支社 〒812-0041
福岡市博多区豊1-3-8-302
電話 092-483-1344

労働党ホームページ
<http://japanlabor.party>
Eメールアドレス
shinbun@japanlabor.party

主な記事	
新春講演／秋山秀男議長の講演	1面～2面
新春講演／大嶋和広同志の講演	3面
旗開き／来賓あいさつ・祝電など	4面～5面
22年新春意見広告	6面～7面

日本労働党中央委員会主催の二〇二二年新春講演会・旗開きが、一月九日開かれた。新春講演は、新たに党中央委員会に選出された秋山秀男同志と総政治部責任者の大嶋和広同志が行なった。党旗開きでは、各界の来賓のあいさつに続き、地方議員と予定候補者、現場で闘う同志たちが発言し、激動する情勢のもとで革命党の建設と闘いの前進を誓い合った。秋山議長と大嶋同志の新春講演の要旨を編集部において掲載する。

秋山秀男議長の講演

(要旨)

世界的な転換期、われわれはいかに闘うのか
私どもの新春講演会、旗開きに「参加いただきましてまことにありがとうございます」といいます。昨年、大隈議長が亡くなった以降も、皆で団結して議論したり、闘ってきた。労働党は隊伍を崩さずやってこれたと思っております。全党の同志、友人、支持者の皆さんの力によるものと感謝いたします。

私は、現在がどんな時代なのか、そういうもど労働党がどう闘っていくのかという大局的な話をさせていただきます。
私が訴えたいことは、一つは、いま資本主義が非常に深刻な危機にあつて、世界的な転換点を迎えているという時代認識です。もう一つは、世界の支配層の中の識者や経営者たちも、資本主義がもつのかどうかという危機意識を非常にもっています。その点について、これらの振りまぐ「サステイナブル資本主義」などは、ひとりで言えば「まかしてある」と言いたい。三点目、それは労働者階級やわれわれはどうするのかということ。結局、資本主義が来るころまで来たということ。資本主義の生産様式に代わる新たな生産様式を打ち立てるための闘いを準備していかなければならないということ。最後は、世界的な

な転換期に際して、労働者階級、人民とともに勝利を目指して闘う決意を述べたいと思います。
商業新聞の社説は新年に際して何を主張しているのか
正月の商業新聞の社説を読みまして、各紙とも共通しているのは「資本主義は危機だ」というのが共通しています。このままいくと資本主義はもたないと。昨年よりはちょっと違ってきます。かれら自身も相当慌てふためいているということ。例えば、「日経新聞」は、格差問題が深刻で、資本主義を作り直さなきゃいけないという主張、「読売新聞」は行き過ぎた金融資本主義の是正、「毎日新聞」は資本主義の見直しを、というふうなことです。

じゃあどうするのかということにはほとんど触れられていません。言いたいのは、こんなにそういう新聞でも、資本主義の危機が取り上げられて大きな問題になっているということとをせひ知っておいていただきたいと思えます。

支配層の「ステークホルダー資本主義への転換」の主張
次に、世界の支配層は危機の打開策として、「ステークホルダー資本主義」への転換を訴えている。これまでの「株主資本主義」が行き詰つ

た。「ステークホルダー資本主義」に転換しなければ資本主義はもたないということと世界の支配層の中の意識分子は主張しています。例えば二〇一五年に国連が「SDG S」という持続可能な開発目標という合意に達しましたね。それから米国の大手企業経営者団体が、「株主資本主義」から「ステークホルダー資本主義」への転換を唱える声明を行って、企業経営者から署名を集めてるわけね。その経営者の中には、みんなの支配的な企業、GAFAMだとか、そういうところも署名してます。これが二〇一九年八月なんです。二〇二〇年には世界経済フォーラム(WEF)が、「ステークホルダー資本主義」を提唱してらんです。そういうことで、日本より少し前から欧米では危機感を深めた経営者らがそういう提唱をしているということ。日本は一周遅れということでしょう。

要するに「ステークホルダー資本主義」でかれらが心配しているのは、格差拡大や環境問題ということなんです。特に格差拡大をこのまま放置すれば資本主義はもたなくなるぞという危機意識ですね。しかし実際は、この数年間で企業収益の分配を見ますと、株主への配当が非常に伸びている。特に二〇〇〇年代に入ってから急伸して、こんなに止まっています。それが実態です。それから、一九七〇年代からこの半世紀で、上場企業の株式時価総額は約八十倍超、金額にすると百兆ドルになっているということ。ところが従業員給与は、九〇年代末からずっと下がっているわけ。そういうことで私は、支配層の一部が「株主資本主義」からの脱却を唱えようとも、一部の人は、例えばビル・ゲイツなんかはもっと税金かければい

いみたいなことを言ってますよね。そういうことはありますが、基本的には、資本主義の構造は変わっていないということ。なんでかれらが、こういう説を唱えているのか。それはですね、このままいくと世界中の働く人たちが不満を高めて、怒って暴動を起こしかねない。すでにも一部では暴動が起こってきている。そういうことを心配している。

米国のあるアンケート調査によると、「社会主義がいいかどうか」というアンケートをやったら、約半分くらいが「社会主義がいい」ということなんです。社会主義と云ってもどういつ社会主義か私に分りませんが、いずれにしても、いまの資本主義はダメ、社会主義はいい、というのが若者の中に出てきているというのが、いまの世相を表していると思います。

日本経団連による「サステイナブル資本主義」の提唱
日本では、日本経団連の十倉雅和会長が、去年の十一月の討論会や今年の新年のあいさつなどで唱えているのは、「サステイナブル資本主義」ですね。持続可能な資本主義ということ。世界の支配層が唱えていることと基本的には内容は同じです。少し紹介しますと、こんなに危機の原因について何で言っているかといいますと、世界的に行き過ぎた資本主義、市場原理主義の潮流によってもたらされた弊害は大きく二つあると。一つは格差の拡大、固定化、再生産、いま一つは、生態系の崩壊や気候変動問題、新型コロナのような感染症問題といったものです。こいつら問題を引き起こしたこれまでの資本主義を変えなきゃいけないと言っているわけ。二面に